

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策			
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見				
～つながりを大切に、今を生きる～ 1 生徒・保護者・地域と教職員がつながり、信頼される学校づくり	(1)人権教育の推進 ①生徒一人ひとりの能力・適性を伸ばし、自尊感情を高める教育をすすめる。	<b>評価指標</b> ①-1「人権の日」を年間11回実施する。 ①-2 社会問題研究部員や人権委員が中心となるHR活動人権教育研究授業を実施する。 ①-3「人権に関する意識調査」の中に「いじめ」や「携帯電話」等に関する内容を取り上げ、HR活動や「人権の日」で話し合う。 ①-4 年間2回学校生活アンケートと個人面談を実施する。  <b>活動計画</b> ①-1「人権の日」の資料をHR人権委員・担当教師・人権教育課で検討し、作成する。また、内容によっては「人権コーナー」を設け、啓発をする。  ①-2 社会問題研究部員や人権委員が中心となるHR活動人権教育研究授業(1日研究授業)を2学期に実施する。 ①-3「人権に関する意識調査」の結果を分析し、教材を作成する。 ①-4 アンケート集計や個人面談後の協議を学年で行い、いじめや個々の悩みを解決するための対応等を決め、組織的に早期問題解決にあたる。	<b>評価指標の達成度</b> ①-1「人権の日」については、年間11回実施することができた。 ①-2 社会問題研究部2名が中心となって、学年全体のHR活動を実施することができた。 ①-3「人権に関する意識調査」の結果を用いて、各クラスの状況に応じたホームルーム活動を行ったり、「人権の日」に話し合いをしたりした。 ①-4 予定通り年間2回学校生活アンケートと個人面談を実施した。  <b>活動計画の実施状況</b> ①-1「人権の日」の資料をHR人権委員・担当教師・人権教育課で検討し、作成することができた。また、阿波西祭で「本校の人権教育の取組」「人権標語」のコーナーを設け、啓発を促した。 ①-2社会問題研究部の3年生2名がファシリテーターとなって、「結婚について」の人権教育研究授業を実施することができた。 ①-3「インターネットと人権侵害」をテーマに「人権の日」の資料を作成した。 ①-4 年2回アンケートを実施し、必ず学年でケース会議を開催した。その結果生徒状況を共有し、対応できた。	総合評価 (評定)  B	A ○社会問題研究部の3年生の2名についてはよく活動している。2年生の部員が少ないようだが、来年もより良い活動ができるよう部員の確保に努めてほしい。 ○「いじめ」に対する取り組みは組織的にできている。全国的にスマートフォンが関係しているみたいなので、なお一層の注意をしてほしい。	○人権に関する活動が、社会問題研究部や人権委員会を中心に校内外・地域で実施できるよう工夫をやる。  ○生徒の様子を教師全員がよく観察し、些細なことでも生徒と関わり、いじめを予防する。SNSについても、生徒の規範意識を向上するために授業中や学校行事を通して指導を行う。		
	(2)中高一貫教育の充実 ①交流授業を改善充実し、指導方法や学習内容の研究をすることにより、学力の向上を目指す。	<b>評価指標</b> ①-1 交流授業を年間15回以上実施する。 ①-2 中高一貫教育教科研究部会での参観(公開)授業を5教科で実施し、教科研究協議会を1回以上開く。 ①-3 ウォームアップガイダンスを3回以上実施する。  <b>活動計画</b> ①-1 交流の機会を多くするために、参加しやすい形態にする。 ①-2 教科会には、授業に参観した他教科の人の意見も取り入れて授業改善に活かす。A I Aだよりなどを通じて、中高一貫教育の良さを広報する。 ①-3 連携型入試合格者に対して中学校に向いて授業を行うことにより、入学者の学力の向上を目指す。	<b>評価指標の達成度</b> ①-1 体育の授業で年間11・12回、英語・数学では20回前後実施できた。 ①-2 参観授業は、5教科、本校並びに各中学校でそれぞれ1回実施できた。教科研究協議会も夏休みに1回実施できた。 ①-3 ウォームアップガイダンスを5回実施した。  <b>活動計画の実施状況</b> ①-1 できる限り交流授業が実施できるように時間割に配慮しているが、体育では、実技の授業のみの交流になったために実施時間数は少なくなった。 ②-2 参観授業では、他教科の教員の参観もあり、授業の活性化に努めることができた。また、生徒による阿波西高校紹介等を通して、中高一貫教育の良さを広報できた。 ③-3 英語・数学・国語の授業を行うことにより、学力の向上を目指した。	交流授業及び参観授業は、中・高各教員にとって中学校から高校への教科の内容の流れを知ることができ、教科指導の大きな参考になった。 学校行事等で交流授業ができないこともあったが、おおむね達成できた。			B ○交流授業は継続してほしい。今年的一般選抜では9名の定員割れているが、連携中学校だけでは集まりにくくなっている。近隣の中学校に、もっとPRしてはどうか。	○従来通り、交流授業と参観授業を実施していく。中学校の体育については、座学の授業の交流も図る。また、中学校の行事に生徒が参加できる機会を設ける。
	(3)防災教育の推進 ①周りの状況を的確に判断し、自	<b>評価指標</b> ①-1 地震、火災の防災訓練を各1回実施し、避難完了時間を昨年度の5%減	<b>評価指標の達成度</b> ①-1 Jアラートを活用した地震避難対応訓練を2回、火災を想定し	防災教育の推進で				

<p>ら安全を確保するための行動ができる能力・態度を養うとともに、他の人々や地域の安全に進んで役立とうとする態度を育成する。</p>	<p>とする。 ①-2 家族の緊急避難場所を確認させ、緊急避難場所を知っているを90%以上とする。 ①-3 緊急時における学校対応（生徒の引き渡し）を知っているを90%以上とする。</p> <p>活動計画 ①-1 避難訓練を実施し、生徒に避難方法や経路を十分把握させる。 ①-2 避難場所の調査や防災関係の資料を配付し、家族と話し合い持てるよう指導する。 ①-3 PTA総会や面談等の機会に、学校における緊急時対応についての文書を配布し、説明する。</p>	<p>た避難訓練1回を実施した。避難完了時間は昨年よりやや早い4分弱であった。 ①-2 阿波市・吉野川市の防災マップにより緊急避難場所の確認を行った。 ①-3 緊急時における生徒の引き渡し方法を知っている者は90%に達していない。</p> <p>活動計画の実施状況 ①-1 生徒は避難方法や経路を十分に把握できており、スムーズな避難訓練が行えた。 ①-2 防災マップや特別警報発表時の対応についてのプリントを、防災ホームルーム活動で活用するとともに、保護者への文書として活用した。 ①-3 保護者に対し学校における緊急時対応についての文書を配布した。</p>	<p>は、自らが判断し、自らの命を守る行動ができるよう、様々な機会に訓練や防災への知識や理解を深めるための教育活動を行った。学校での避難経路や安全な避難の方法は十分把握できている。</p>	<p>A</p> <p>きていた。 ○災害発生時には地域との連携が不可欠である。防災士を置き、地域や同窓会と連携した防災訓練を実施してはどうか。 ○体育館に災害緊急用鍵ボックスができるなど設備面も良くなった。</p>	<p>域等と連携した防災訓練の実施を検討する。 ○非常事態に職員がスムーズに対応できるように取り組むための研修に取り組む必要がある。 ○生徒防災クラブを設置し、防災に対する意識の高揚を図る必要がある。</p>
<p>(4)学校運営体制の充実 ①教職員のコンプライアンスの推進を図る。 ②安全な教育環境を整えるなど、危機管理の充実を図る。 ③保護者等との連絡を密にし、地域とのつながりを強化する。</p>	<p>評価指標 ①-1 職員研修を各学期に1回実施する。 ①-2 職朝での啓発を2週間に1回以上実施する。 ②-1 管理職による校舎内外の巡視を毎日実施する。 ②-2 全職員による設備等の自主点検を各学期に1回実施する。 ③-1 総会出席者50名を目標とする。 ③-2 各種行事、研修会への参加者を延べ人数で40人以上を目標とする。</p> <p>活動計画 ①研修に積極的に参加したり、事例集を活用したりして職員への研修や啓発を行う。 ②-1 巡視を行うことで危険箇所の把握に努め、迅速に対応する。 ②-2 自主点検をとおして、職員の管理責任者としての危機管理意識の高揚を図る。 ③各課と連携を図り、各種研修会や講演会等への参加を呼びかけるとともに、文書が確実に届くように工夫する。</p>	<p>評価指標の達成度 ①-1 各学期の職員会議を利用し職員研修を実施した。 ①-2 年間50回以上の啓発活動等を実施した。 ②-1 教頭2名が連携して毎日校舎内外の巡視を行い、施錠を徹底することができた。 ②-2 長期休業期間を利用して自主点検を実施した。 ③-1 1年19名、2年15名、3年28名、計62名が参加し、目標を達成できた。 ③-2 阿波西祭14名、体育祭16名、研修会16名、協賛事業7名計53名が参加、また1年進路説明会21名が参加し、目標を達成できた。</p> <p>活動計画の実施状況 ①リーダー研修等の研修に参加して得た知識や事例集を活用し研修を行い、職員のコンプライアンス意識の向上に努めた。 ②-1 危険箇所の早期発見に努め、転落防止策など速やかに対応することができた。 ②-2 管理責任者としての自覚を持ち、危機管理に努める意識を醸成することができた。 ③案内状をホームページに掲載した。学校評価の保護者アンケートの回収率は77.9%であった。学校からの通知が受け取れている。「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計は80%程度であった。</p>	<p>教職員のコンプライアンス意識の推進においては啓発活動の機会を増やすことで、職員の意識の向上が図られた。また、危機管理の充実においては、管理職を含め全職員で活動に取り組むことで、問題箇所の早期発見と迅速な対応が図られている。</p>	<p>A</p> <p>○コンプライアンスについてはUSBメモリー等の管理が気になっていたが良くできているみたいで安心した。 ○安全面でも、転落防止手すりの取り付けや体育館の窓ガラスの飛散防止など危険箇所の把握や対策ができている。来年度も引き続き対策に努めてほしい。 ○保護者や地域とのつながりは今後防災上も重要なので、大切にしたい。</p>	<p>○今後、教職員が一人一人自分のこととして取り組めるよう、研修をしていきたい。 ○危険箇所の確認等、生徒の安全確保に努めていきたい。 ○引き続き保護者・地域とのつながりを大切に、学校・生徒の様子を広く発信していきたい。</p>
<p>2 各課（教職員）がつながり、協働できる学校づくり</p>	<p>(5)特別活動の推進 ①望ましい人間関係を形成し、集団の一員としての所属感を高める。</p> <p>評価指標 ①-1 「一人一躍」部活動・ボランティアに積極的に参加する。（参加率85%以上） ①-2 学校評価における「授業や行事に積極的に取り組んでいる」の「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が85%以上になるようにする。</p>	<p>評価指標の達成度 ①-1 部活動・ボランティア活動（JRC）入部率は90%であるが、日々の積極的な参加は時間が経つにつれ85%以下となった。 ①-2 学校評価に表れる生徒自身の取り組みは85%を超えており、積極的に取り組んでいると思っている。</p>	<p>(評定) B</p> <p>昨年同様、生徒自身は積極的に活動していると思うが、学年が上がるにしたが</p>	<p>B</p> <p>○少ない生徒数の中でよく部活動は頑張っている。運動部でも全国大会に出場できたのはすばらしいと思う。 ○上級学年の部活動参加率をもっと上げるよう頑張してほしい。</p>	<p>○昨年と同様に、活動に対する意識が低い部員が多く見られる。自分の活動に満足できるよう、生徒の意識改革を行う必要がある。</p>

		<p>活動計画 ①-1 部活動未登録者が減少するよう呼びかける。</p> <p>①-2 生徒会活動・各クラスの委員長・副委員長や委員会活動を活発にし、連携をとりながら学校祭を初めとする各行事が充実できるようにする。</p>	<p>活動計画の実施状況 ①-1 1学年においては登録はほぼ100%である。学年が上がるつれ、活動しない生徒が増加する。</p> <p>①-2 昨年に比べて生徒会の積極的な活動や委員会活動との連携がとれ、学校祭をはじめとし行事は活発な取り組みができた。</p>	<p>って活動できていない生徒が増えている。3年間継続した活動ができるような指導が必要であると考える。</p>	<p>○生徒会は工夫して良くできている。掲示板も内容が新しくなり新鮮である。</p>	<p>○本年度は、ある程度、生徒会活動が活発に行えたが、一部の生徒の熱心な取り組みによるところが大きい。活動する生徒が少しでも増えるように指導が必要である。</p>
3 知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する授業づくり	<p>(6)生徒指導の充実</p> <p>①規範意識を高め社会性を身につけるとともに、自他の命を大切にしている生徒を育てる。</p>	<p>評価指標 ①-1 問題行動の未然防止に努める（特別指導総数の減）。</p> <p>①-2 相手の立場に立った言動や振る舞いができる生徒を育てる。（学校生活アンケートを実施し評価する）</p> <p>①-3 交通事故の総数を減らし、重大事故をゼロにする。</p>	<p>評価指標の達成度 ①-1 個別指導の徹底で未然防止することができた。（特別指導15件減）</p> <p>①-2 まだ不十分だが大きな事象につながるものはなかった。</p> <p>①-3 交通事故総数は3件減少したが、危険な事故は3件程度あり今後も指導継続が必要である。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>交通事故が減となつてはいるが非常に危険な事故もあり、今後も継続的な指導の必要がある。</p> <p>問題行動は大幅減となったが、些細なことで人間関係をうまく築けないケースもあり、今後は自己解決力の育成することも大切である。</p> <p>環境・健康教育では、毎日の指導の積み重ねが結果として表れ、目標がほぼ達成できた。朝食摂取については、様々な機会に啓発活動や保健指導することで、自らが健康を保持しようとする気持ちが少しずつ芽生えてきている。</p>	<p>○問題行動は著しく減少し、指導の効果が出ている。</p> <p>A</p> <p>○最近の交通マナーも良くなっているように思うが、危険な事故が3件あったということなので、無くなるよう指導を徹底してほしい。</p>	<p>○自分自身や学校、友人関係等をよくするために行動ができる生徒の育成に努める。</p> <p>○交通事故ゼロを目指した生徒指導を強力にすすめる。</p>
	<p>(7)環境・健康教育の推進</p> <p>①身近な環境問題の解決に主体的に取り組む生徒を育成する。</p> <p>②生徒自らが健康を保持増進できる力を養う。</p>	<p>評価指標 ①電気使用量及び水道使用量を昨年度以下にする。</p> <p>②朝食摂取率を上げる(80%以上)</p>	<p>評価指標の達成度 ①電気使用量は、昨年度より4%減少した。水道使用量は、11月末集計で5%上昇するが、漏水の影響も考えられる。</p> <p>②朝食摂取率が84%に上昇した。</p>		<p>A</p> <p>○漏水については、素早く対応ができています。今後とも異常が見られたら素早い対策をお願いしたい。</p> <p>○朝食摂取率も上昇しているのは良いことです。昼食について、他校では食堂の閉鎖がすすんでいるようだが、阿波西では弁当の持参率が高いようだ。さらに、阿波市給食センターとの協力も視野に入れてはどうか。</p>	<p>○本年度、新学校環境版ISO実施校として認定された。引き続き地域と連携しながら、環境問題に取り組んでく。</p> <p>○健康管理の基本である生活リズムや朝食摂取の重要性を理解し、行動に繋がるような保健指導や食育指導をすすめる必要がある。</p>
4 各教科がつながり、基礎学力の向上と発展的学力の伸長を図る授業づくり	<p>(8)進路指導の充実</p> <p>①基礎学力の向上を図る。</p> <p>②進路意識の高揚を図り、主体的に進路選択ができる能力・態度を養う。</p> <p>③読書を通して豊かな感性を身につけ、自己実現を図る。</p>	<p>評価指標 ①-1 家庭学習時間を全体平均2時間以上を目指す。(昨年度平均1時間44分)</p> <p>①-2 GTZでD3の人数を減らす。</p> <p>②進路関係行事を、各学年各学期に1回以上実施する。</p> <p>③家庭での読書時間1日平均5分以上を目指す。</p>	<p>評価指標の達成度 ①-1 年間家庭学習時間は、1時間55分(2月現在)である。</p> <p>①-2 第1回と第3回を比較するとD3の人数は、1年生32人から33人と1人増、2年生39人から36人と3人の減であった。</p> <p>②進路関係行事は、各学年各学期に進路ガイダンスや進学相談会等を1回以上実施できた。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>定期考査直前の家庭学習時間は2時間以上になっている</p>	<p>○今年度は、就職関係・進学関係共に内定率は良かったのではないかと。ただ、国公立大学の希望者が0人なのは少し寂しい。国公立大学よりも医療関係への希望が増えるのは仕</p> <p>A</p>	<p>○日々のプリント、週末課題を利用して家庭学習の習慣を身に付けさせたい。また、自分の進路への意識を高めさせることによっても家庭学習の重要性を認識させたい。</p> <p>○校外での進学相談会は</p>

	<p>活動計画 ①-1 毎月家庭学習時間調査を行い、結果を教員間で共有するとともに家庭学習の記録を活用して、生徒に家庭学習を奨励する。</p> <p>①-2 学期に1回学力検討会を開く。</p> <p>②各学年の目標に応じて体験授業、職場見学、インターンシップ等の体験的な学習や、進路講演会を実施する。</p> <p>③図書館だよりを年間10回以上発行し、読書の推進に努める。</p>	<p>③ 家庭での読書時間は1日平均10分であった。</p> <p>活動計画の実施状況 ①-1 毎月家庭学習時間調査を行い、調査結果を教員に配布するとともに、クラスにも掲示し家庭学習の大切さを示した。</p> <p>①-2 1学期に学力検討会を実施した。2学期はベネッセの個人情報漏洩等のことがあり実施しなかった。3学期は高校入試等行事が多く、実施できる見込みはない。</p> <p>② 進路啓発のために、学年に応じて体験授業や進路講演会を実施した。</p> <p>③ 図書館だよりは年間8回の発行であったが、新刊の案内等を通して読書の推進を図ることができた。</p>	<p>が、普段は1時間40分前後と少なくなっている。目標達成のため、また、基礎学力の向上のためにも、家庭学習時間が0時間の生徒を無くさなければいけない。家庭学習の習慣が身につけばGTZでのD3の人数が減少すると思われる。</p> <p>平均読書時間はやや多かったものの、全く読書をしないという生徒も3分の1おり、その生徒に対する指導が今後の課題である。</p> <p>今年度は当初より、朝読と平行して学びなおしを実施し、基礎学力の向上に努めた。また、大学生による支援事業も活用しマナトレ補習を実施した。今後、多様な生徒が入学することが予想されるので、地道な取り組みを継続する必要がある。</p> <p>授業評価については、昨年度まで抽出教科で12月のみの実施であったが、本年度からすべての教科で7月と12月に実施し、授業評価が2学期以降の授業に生かせるようにしたことで、授業の改善が図れた。</p>	<p>方がないのかなとも思う。</p> <p>○進路関係の学校行事も多く行われていて、生徒の進路選択に役立つ。読書時間が少ないのが気になるので、読書の啓発を進めてほしい。</p>	<p>徳島市内での開催が多いため取捨選択する。</p> <p>○図書館だよりを年間10回発行することを目標にする。1年間を通して多読者を公表し、読書の推進を図る。</p>
<p>(9)学習指導の工夫改善</p> <p>①個々の生徒の実態に応じた丁寧な学習指導を行い、学習意欲の向上を図る。</p> <p>②授業評価や研究授業、参観授業、教科研究会等を実施し、個々の授業改善に努める。</p>	<p>評価指標 ①-1 学びなおし教材(マナトレ)の検定合格者を、基礎編(10級,9級,8級,7級)は100%,標準編(6級,5級,4級)は90%以上とする。</p> <p>①-2 各種検定(漢字・英語・数学・商業・秘書・食物等の検定)の上位級挑戦者を昨年より10%以上増やす。</p> <p>②授業評価の「理解しやすく学力がつくような工夫をしていた」を昨年比5%増加させる。</p> <p>活動計画 ①-1朝の10分間を学びなおしタイムとし、マナトレを活用することで義務教育段階の内容について個々の学力に応じた指導を学年の教員全員で行う。マナトレの補習を放課後(木曜日)行うことで指導の徹底を図る。</p> <p>①-2 各種検定の積極的な受検を促し、上位級に合格させるための個別指導や補習を積極的に行う。</p> <p>②参観授業、教科研究会を積極的に行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1検定合格率 基礎編(10級96.0%,9級94.7%,8級89.3%,7級96%) 標準編(6級68.5%,5級19.2%,69.9%)であった。</p> <p>①-2 英検は200%以上、漢検・数検・は10%以上増加した。他の検定は昨年並みの受検となった。</p> <p>②「そう思う」「ややそう思う」の割合は前年度と変わらず89.6%であった。</p> <p>活動計画の実施状況 ①-1マナトレを正副担任及び学年付きの教員で指導できた。</p> <p>①-2 各担当者が積極的に受検するよう促し、昨年実施できなかった数検についても受検することができた。英検については拠点事業の取り組みで大幅に受検者が増加した。個別指導や補習も随時実施した。</p> <p>②本年度は研究授業・教科研究会を昨年度より早く実施し、授業の改善に生かした。</p>	<p>今年度は当初より、朝読と平行して学びなおしを実施し、基礎学力の向上に努めた。また、大学生による支援事業も活用しマナトレ補習を実施した。今後、多様な生徒が入学することが予想されるので、地道な取り組みを継続する必要がある。</p> <p>授業評価については、昨年度まで抽出教科で12月のみの実施であったが、本年度からすべての教科で7月と12月に実施し、授業評価が2学期以降の授業に生かせるようにしたことで、授業の改善が図れた。</p>	<p>○基礎学力の向上は進路を考えていく上で大切である。学びなおしを行っていることで少しは成果があったみたいであるが、今後多様な生徒が入学することが予想されるみたいなので一層力を入れてほしい。</p>	<p>○マナトレ検定の合格率を上げるため、基礎編は個別指導を徹底する。標準編は長期休業中の補習を有効に活用する。</p> <p>○参観授業週間などが互いに刺激を受ける機会を設けるなどし、授業力の向上を図る。</p>

① \* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった